

1. 教育目標

生き生きと元気ある子に

- ・人の話を聞ける子、素直な子
- ・一生懸命やる子
- ・何事も最後までやり抜く子

2. 本年度、重点的に取り込むことが必要な目標、計画

- ・「知」「情」「意」の「意」を強化する
- ・子どもの長所を伸ばすことに重点を置く
- ・規則正しい生活習慣を身につけ、自立心や我慢する心を伸ばす
- ・子ども達の発達にふさわしい表現力、想像力、観察力を伸ばす
- ・情報の伝達は、紙媒体から ICT へ移行する
- ・「避難訓練」「交通安全教室」を計画し、確実に実行する
- ・言葉、文字、積極的に先生から子どもたちへのコミュニケーションを行う

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	取り組み状況	評価	評価理由
「知」「情」「意」の「意」を強化する	昨年度導入した「安田式体育遊び」の実施とその効果の検証	A	・順番を待たず、自分のペースで繰り返し運動できている。 ・友達を応援し、励ますことで仲間意識が生まれ、日常にもその様子が伺えるようになった。 ・自分から色々な事に挑戦しようとする意識が芽生えてきた。
子どもの長所を伸ばすことに重点を置く	・子ども達の個々の記録を見て、褒めたり励ましたりする。	B	・手のかかる子どもに意識が取られ、全員と平等に接するのが困難になりがちである。 ・保護者に対し、園での子ども様子を伝える時間が少なかった。
規則正しい生活習慣を身につけ、自立心や我慢する心を伸ばす	・日々の挨拶をしっかりとりする。 ・感謝の気持ちを大切にしている。	A	・気恥ずかしさが出てきて、挨拶をしたりしなかったりする。 ・「体育着」「制服」の着替えが上手になってきた。 ・トイレに行きたいと自ら言えるようになってきた。
子ども達の発達にふさわしい表現力、想像力、観察力を伸ばす	・音楽、製作、お遊戯、自ら楽しく工夫してみる。 ・既成概念にとらわれず、発達に合わせて高めていく。	B	・決められた課題を、自由な発想で積極的な工夫に挑戦してほしい。 例として、個人製作ばかりでなく、グループ製作にも挑戦してほしい。みんなで相談して協力して一つの物を作り上げることを提案する。
情報の伝達は、紙媒体から ICT へ移行する	・動画配信等の積極的な活用 ・「クラスだより」「園だより」をホームページ掲載に移行 ・出欠席アプリの利用。	B	・印刷や配布準備の時間を、他の作業等に振り向けた。 ・欠席の連絡を電話から「出欠席アプリ」に移行したが、電話に対応している時間や聞き間違いが減少した。

「避難訓練」 「交通安全教室」を計画し、確実に実行する	・年度計画どおり、4回の避難訓練と交通安全教室を実施した。	A	・緊張感のある雰囲気の中で訓練に取り組んでいた。 ・保護者への引き渡し訓練（地震）を実施したが、訓練に取り組む姿勢が保護者により大きく異なっていた。保護者の意識改善が必要である。 ・このご時世なので訓練を日頃から行ってほしいという意見が多い。 ・きちんと警察官の話を聞いて実践していた。 ・職員は、刺股の練習をした。
言葉、文字、積極的に先生から子どもたちへのコミュニケーションを行う	・日頃、先生は一人一人言葉を積極的にかかわすように心掛ける。 ・困った事がある時は、声をかけ、その子その子の対応を考えて指導する。	B	・担任ではない先生から声をかけられるのは、とても嬉しい事であるので、積極的に声掛けをしている。 ・先生の個性により多少の違いはあるが、子ども達への対応は、明るく、楽しく接している。 ・困っている園児に対し、担任でなくても遠慮せず、もう一步踏み込んだ対応をするように指導する。

4、学校評価の具体的な目標の総合的な評価結果

B……保護者から昨年に引き続き、園での子供の様子を知りたいという要望が多数あった。その要望に対応するため、園内の様子を動画配信したが、自分の子供が写っていることに否定的な保護者がいたため、その子供を特定し、削除する作業に膨大な時間と労力を使用した。

保護者の中には、自分の子どもの姿が動画や写真に写り、それを他の保護者が閲覧することに敏感な人もいるので、動画配信等の目的を丁寧に説明し、理解を得られるよう努力する。

5、今後取り組む課題

1、毎日、身体を動かすことを重視する。	・「マラソン」「平均台」「跳び箱」「雲梯」「マット運動」「ボール投げ」「鉄棒ぶら下がり」の基本運動の実施。 ・上記をローテーションで実施する。 ・先生方と話し合っ毎日の課題を考えて、子ども達が楽しく体を動かすことができるようにする。
2、お預かりの充実	昨年度は早朝保育を8:00から8:30実施したが、利用者は2~3人であった。 当園は、駅から遠方に所在するので、お迎えの時間を18:00にし、2号認定の方を増やしていくようにする。 お預かりの時間中は、「製作」「お絵かき」「ゲーム」等をする。長い時間なので、子ども達にあきがこないように工夫して遊ばせている。 令和6年度から預かり時間を18:30に変更する予定である。
3、子育て支援活動の充実	・月一回程度を目途に園庭開放等を実施し、当園の特徴を周知する。 ・今年度から、満3歳の受け入れを開始するが、1歳児、2歳児の受け入れも視野に入れた「親子の集い」等を計画する予定である。

6、学校関係者評価

6-1

自己評価で設定した目標、計画、評価項目の設定は、適切なかどうか。

「知」「情」「意」のバランスを再考した結果、「意」を補完するため「安田式運動遊び」の導入を決定した。

園児たちは、体を動かす事を楽しみながら、日々自然と自分の身体の使い方を学んでいるよう実感できる。自分のペースで黙々とやっている子、お友達と一緒に回っている子、途中、休憩しながらや

っている子、と対応は様々であるが、嫌がる子がない事は特筆すべきことである。

最初は怖くて入れなかった園児も、他の園児の様子を見て学び、自分もやってみようと思ひ始め、仲間に入るといふ、自ら学ぶ時間が多かったという保護者の感想と、評価関係者の高評価を得た。自ら怪我をしないように慎重体を動かしている子供たちの様子にも驚いている。

チャレンジ～成功～目の前に笑顔の先生～ハイタッチの流れ、先生の笑顔、子ども達の笑顔が好印象であった。

・ただ遊ばせるだけではなく、学びながら体を動かす事も良い評価をいただいた。

6-2

評価項目(7項目)の結果については適切であろうか

- (1) 初めての「安田式体育遊び」を取り入れ高評価であったが、身体を動かせば怪我のリスクは高まるので、先生がしっかり一人一人を見て、体調なども考えて指導して欲しいという保護者からの意見があった。

「知」「情」「意」を育むカリキュラムがバランスよく配置された今、これから子ども達がどう成長していくのかが楽しみである。

- (2) 「子ども達の長所を見つけ伸ばす事に重点を置く」先生たちが、一人一人に声をかけていたが、わからない子、理解できない子に対して、さらに声掛けし、楽しくチャレンジさせるよう努力する。

保護者からのアンケートでは、先生方はよく子どもの事を見て下さっているのもっと保護者と話す機会を増やしていただきたい、という意見があった。保護者面談は1学期のみなので、集団生活の中での自分の子どもの長所といわれてもなかなか難しいようである。

- (3) 「規則正しい生活集団を身につけ、自立心や我慢をする心を養う」

コロナ感染が落ち着いた反面、手洗いの意識が低下しているように思えた。

トイレを済ませた後に、先生から言われないと手を洗わない園児が目立つことが気になったところである。目を離さずに指導して、手洗いを習慣化させるよう指導を徹底したい。

制服や体育着に着替える、着替えた衣服をきちんとたたむ等をきちんと指導して良かった。自分でお友だちの行動をみながら自ら行動する、最初は他の園児の模倣であるが、自らやろうとする気持ちが芽生え始めているように思える。先生が過度に口出しせず、見守ることが良い結果につながっている。

- (4) 「子ども達の発達にふさわしい表現力、想像力を伸ばす」

図工参観では、驚くような題材が与えられて、子ども達の発想力、想像力を高めてくれる指導が見られた。エキスパートの講師と先生たちの協力体制が、参観の成功を導いたと思う。先生たちの指導も、園児一人一人に丁寧に実施されていた。

問題は、興味を示さない園児に対して、どのように対応するかである。いかに興味をもたせるか、振り向かせるかがこれからの課題である。

- (5) 「保護者対応に関して紙を使用せず ICT 化する」

保護者からは、なかなかうまくアプリを使えない、紙媒体の方が良いという意見もあったが、現在では公立の小学校等でも ICT 化が進み、連絡事項やアンケート等全てアプリ使用が現状である。

- (6) 「避難訓練や防犯、交通安全教室を実施し、積極的に参加」

元旦に発生した能登半島地震や報道される不審者等のニュースから、不測事態に対応する訓練は不可欠である。当園では正門に自動鍵を設置し、鏡や、自動投光器で安全面に配慮している。

年度計画で年4回の避難訓練と府中警察による交通安全教室計画しているので、最優先で確実に実施する。

(7)「言葉、文字、積極的に保育者から子ども達へコミュニケーションを行う。

先生は、担任以外の園児の顔と名前も、早期に掌握している。機会を捉えて園児や保護者と積極的にコミュニケーションをとっている。

6-3 具体的な目標や計画の総合的評価結果については適切に行われていましたか。

評価項目の達成結果を子ども達の行動に即して振り返り、既に達成されていたように思われる。

6-4 今後取り組むべき課題は適切に行われていましたか。

項目ごとに具体的にあげている為、来年度への課題がわかりやすくなっている。

保育者には、良かった点をさらに伸ばして、一人一人の子どもに向き合ってもらいたい。

保護者のアンケートから

公開保育のとき、子ども達に指導している先生方の笑顔や楽しそうに声掛けをしていたのが、とても印象的で良かった。また、「安田式体育遊び」を子どもと一緒に体験し、よくできたというハイタッチの合図をとても嬉しく感じた。

動画配信をもっとしてほしいという意見が多かった反面、数名の保護者から「この子は撮ってはダメ」「少し見える」など色々な意見が存在する。特定の子どもの判別し、削除するのに膨大な時間と労力を要し、配信できなかった動画も存在するが、大多数の保護者は喜んでいるので、動画配信の目的を理解していただけるよう、粘り強く努力する。

実年齢よりも難しいことにチャレンジする気持ちが養われているように思う。

日々の保育を通して先生方が一人一人に合わせて、園児個人に無理のないところまで頑張らせて下さっていたから、あきらめずに取り組む、自分のできるところまで精一杯頑張る、ということが身につけているように思える。

小さなことでも、幼稚園でどのようなことに取り組んでいるから、お家でもこんなことを試してみたい。と、保護者への情報共有をもっとしても良いという意見があり、昨年度に引き続き考えていこうと思う。

その他

★お遊戯会の衣装作りを保護者に依頼しているが、最近、問題が表面化している。

「先生がイメージを紙に書いて提示してほしい」「保護者同士の話し合いの時間を設けてほしい」

「衣装を園で保管し再利用できないか」という意見がありました。

★集団行動に馴染めない園児に対して、今年度は補助の先生を就ける。

★第五中学校の職場体験が4年ぶりに再開しました。中学生がクラスに入り、「ボール投げ」「紙芝居」「鬼ごっこ」等で遊びました。園児はとても楽しかったのか、保護者からとても喜んでいる、という報告がありました。中学生のお兄さん、お姉さんたちも、とても充実した3日間でした、という感想でした。

★第六小学校との交流会に年長組が参加しました。1年生と昔遊び等を体験しました。保護者からは、今後も積極的に交流会に参加してほしいという意見がありました。